

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

33

2013

◎特集 とぎれることのない医療サポートを目指して

DOCTOR'S VOICE 01 認知症対策で愛媛モデルの構築

DOCTOR'S VOICE 02 変化に備え、対応する病理診断

DOCTOR'S VOICE 03 相互理解で教育レベルの向上

6

総合診療サポートセンター
Total Medical Support Center

9



多種職協働で治療を行い、学び、情報交換できるセンターを目指します

認知症疾患医療センター 副センター長 谷向 知 医師



市民公開講座「みんなで考えよう認知症」(平成25年6月8日、リジェール松山)



PROFILE

たにむかいさとし◎1989年大阪大学医学部卒業。国立療養所中部病院(現国立長寿医療センター)、筑波大学を経て、2007年4月愛媛大学脳とこころの医学(精神科)准教授。認知症の診療・教育・研究に組み込み、2008年には愛媛県で初めて若年認知症の疫学を実施。2013年4月に認知症疾患センター副センター長就任。趣味は将棋、唄うこと。

愛媛県の認知症疾患医療センターは平成25年3月にスタートしました。県内には6つの保健医療圏域があり、それぞれの保健医療圏域の中で1つ地域拠点センターを作り、6つのセンターを統括するという形で愛媛大学の認知症疾患医療センターがあります。

センターは認知症の早期発見と早期対応に重点を置きますが、愛媛県の現状を見ますと、認知症の正しい普及啓発も必要ですが、認知症だけでなく精神疾患に合併する身体的なことも含めての治療体制確立も必要です。認知症のため入院が難しく、患

者さんが非常に不利益をこうむっているようなケースもあります。センターを起点に各病院の連携を深め、症例検討会を行い、現場の医療従事者と福祉・行政の方々とタッグを組んで対応できる人材とシステムを育成していくことも大切です。また県内の6つの地域拠点センターは精神科単科の病院です。認知症の中期までは確かに不眠、妄想、興奮といった精神症状のために本人も介護する側もつらくなることがありますが、これらの症状は薬に頼るよりも、かかわり方を知ることです。一方、認知症の経過が進んでいくと、歩けなくなる、食べられ

なくなる、寝たきりになるという身体的な問題がでてきます。そうなると精神科に限らず、全ての科で診ていくことが重要です。総合病院で精神科病床のある病院は当院ですから、合併症で困っておられる患者さんは積極的に診ていかなければなりません。当院は檜垣病院長がセンター長を兼務して、多種職協働して認知症

に取り組んで参ります。早期発見・早期対応は重要ですが、もう少し包括的な視野で認知症対策を展開したいと考えています。

当院のセンターでやるべきことや、やりたいことはたくさんあります。まずは認知症かどうかわからない方、認知症と気づかれなかった方に気軽にセンターに来てもらえるようにする仕組みづくりや、65歳未満で発病されている方に対するの対策や取り組みを考えています。更に、認知症の方、あるいはご家族の方が情報交換でき、医療従事者や福祉関係者に、たとえば終日診察を見学していただく機会を設けるなど、認知症について学べる場を提供できればと考えています。診察でのやりとりを1日体験していただくだけでも認知症についての見方は変わると思います。

当院は地域発展を牽引する病院を目指しています。病気になってからではなく、健康について学んだり、ボランティア活動に参加したりできるコミュニティとしての機能を持った病院を作り上げていく起爆剤の1つとしてセンターがお役に立ち、愛媛モデルとして全国に発信できれば素晴らしいことだと思います。



認知症疾患医療センター(外来棟3階)から情報発信します

正確な診断と新しい技術で、患者さんの治療を支える

病理部部长 杉田敦郎 医師



PROFILE

すぎたあつろう◎1985年愛媛大学医学部卒業。卒業後、医学部病理学講座を経て当院勤務。光学顕微鏡下に観察し得る腫瘍細胞や腫瘍組織の形態や発現マーカーから、腫瘍の性質、特に悪性度判定による予後評価が研究課題。趣味は日曜大工。

病理部の役割は病理診断、つまり組織や細胞の検体に対して診断をするということが一番の仕事です。病理部は直接患者さんと接することはありませんが、正しい診断をし、臨床に役に立つ情報をいかに提供していくかが重要となります。我々がミスリードしてしまうと治療方針が誤った方向に進んでしまう可能性が高いですし、我々がいくら正しく診断しても、臨床側にきちんと情報を伝え、患者さんの治療に反映させなければ何の意味もありません。近年は疾患概念自体が変化してきており、診断基準も変わってきていますし、新しい試みが次々出てきています。そういったものにも目を向け、臨床側と協力していく必要があります。

病理部は長年、常勤医が1名しかいませんでした。現在は私を含め3名の医師が在

籍しています。技師も人数が増え、以前はごく少人数でやっていたものが、今は一つの部署として形になってきています。病理部の重要性が高まってきた結果だと思っています。私の役割は、これからの病理部を担う医師や技師が、仕事をしやすい環境を作ることだと考えています。従来の病理診断と新しい部分をミックスして診断を行ってほしいので、その橋渡しができればと。また、今後は単純に病理医が標本を見て診断するだけではなく、免疫染色等により客観的な指標を示すことが非常に重要になってきますし、FISH法など核酸レベルの新しい分野に力を入れていく必要があります。世の中が病理に求めるものは変化してきます。それにきちんと対応していくために、準備を進めたいと思います。

診療・教育・研究のバランスよいレベル向上、ローカルからグローバルな展開へ

消化器・内分泌・代謝内科学 教授 日浅陽一 医師



PROFILE

ひあさよういち◎1990年愛媛大学医学部卒業。卒業後、当院勤務。その後、松山赤十字病院、大洲中央病院勤務を経て再び当院へ。肝疾患診療相談センター長兼任。肝疾患を中心とした消化器疾患の診療、研究に従事。趣味は音楽鑑賞。好きな音楽はブラームス、モーツァルトとビートルズ。

私は平成25年4月1日付で消化器・内分泌・代謝内科学の教授に着任いたしました。着任にあたり、自分の考えを整理しました。大学病院には診療・教育・研究という3つの大きな役割があります。診療では、大学病院だけではなく県全体のレベルアップを図ることが期待されています。幸い県内には当科を経て、各基幹病院に赴任されている先生方が数多くいらっしゃいます。その先生方と診療ネットワークを作り、患者さんを適切な施設できちんとフォローできるような体制を構築していきたいと思っています。

教育については、私は最重要課題と考えています。教育こそ大学病院でしかできないことであり、教育に力を入れなければ県の医療レベルの向上には繋がっていきません。これからの医療を担う学生や研修医、医師

に対して、そのニーズを把握し、コミュニケーションをとりながら必要な情報を伝えていく、「相互理解」が大切だと考えています。研究では「グローバルリゼーション」(グローバル+ローカリゼーション)をテーマにしたいと思っています。つまり、世界的な視野に立ちながら、愛媛という地域、愛媛大学でしかできないことに注目して、世界に向けて発信する。そのような研究ができればと考えています。



愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

愛媛大学医学部 創立40周年記念事業

愛媛大学医学部は平成25年度に創立40周年を迎えます。創立40周年を記念して関係者をお招きし記念式典等を開催します。関連事業として第25回ヘルスアカデミーへの皆様のご参加をお願い致します。

◎記念式典等

日時：平成25年9月28日(土)
13時30分～

場所：ひめぎんホール

- ・記念式典
- ・記念講演
- ・記念コンサート
- ・記念祝賀会

◎関連事業

第25回ヘルスアカデミー

「愛媛大学医学部附属病院の
チャレンジ-40周年記念講演-」

日時：平成25年9月29日(日)
13時～16時

場所：高島屋9Fローズホール

総務課総務チーム

☎089-960-5125

憩いの空間 ホスピタルパーク



病院北側の市道との境界にホスピタルパークが平成26年春に完成いたします。ホスピタルパークは「心からもてなす」(ホスピタリティ: Hospitality)という願いのもとに名づけられました。パークは本館前庭ゾーン、いこいのゾーン等5つのゾーンに分かれています。そして展望広場を新たに造り、遊歩道を改修し、患者さん、家族、見舞い、地域の方々、そして病院で勤務している皆様が憩える空間づくりを目指していきます。

施設課

☎089-960-5160

患者図書室「ひだまりの里」 全国1位の利用率



患者図書室「ひだまりの里」は、NPO法人「医療の質に関する研究会」により開設、運営しています。同法人は平成25年までに全国50病院に患者図書室を設立。定期的に全国にある患者図書室の利用状況(病院の規模や外来の来院患者数・入院患者数と利用人数を平均)のランキングを発表しています。今回「ひだまりの里」の利用者は平成25年5月現在25,014名となっており、50施設中1位となりました。

医療サービス課医療福祉チーム

☎089-960-5099

ボランティア感謝状贈呈式 及び懇談会を実施



平成25年6月11日(火)、ボランティアさん51名の参加を得て感謝状贈呈式及び懇談会を行いました。これは、本院でのボランティア活動時間が通算200時間、500時間に達した方等を病院長が感謝の意を込めて表彰し、同時にボランティアさんの生の声を直接お聞きする機会として毎年実施しているものです。今年は、活動時間が1000時間・2000時間・3000時間を越えた4名を含め10名の方を表彰しました。

医療サービス課医療福祉チーム

☎089-960-5099

白衣授与式を実施



平成25年4月25日(木)に「白衣授与式」を行いました。これは病棟実習に真摯に取り組む、将来の医療を担う覚悟をもってもらうために行っているものです。今年は全国共通の共用試験に合格し、各種感染症の予防ワクチンを受けるなど病棟実習の資格を得た101名の医学生がチーム医療に加わりました。学部長、病院長他各教授が各自のネームが入った白衣を羽織らせ、激励しました。

学務課

☎089-960-5170

編集後記

本号では当院の認知症医療疾患センターとしての取り組みおよび病理部や新着任教授の意気込み、ホスピタルパーク構想などをご紹介申し上げます。また表紙にて総合医療サポートセンタースタッフの活気も感じて頂ければ幸いです。この総合医療サポートセンターは、「総合医療相談」と「地域連携推進」の両機能を併せ持ち、患者やご家族に対する医療・福祉・看護相談等の医療サービスを行うと共に、地域の医療機関・福祉行政との連携や他施設との調整を図り安心して療養できるよう、総合的に医療を支援する目的で設立されています。熱き夏、残暑が続きますのでくれぐれもご自愛くださいませ。

広報委員会委員長

高田清式

◎表紙

総合診療サポートセンターのスタッフ



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>